

佐川町における歴史と自然を活かしたまちづくり

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1230123 南部 七音

指導教員 重山 陽一郎

1. 背景と目的

佐川町は江戸時代から城下町として酒造や旧商家を中心に風情あるまちなみが形成されている。現在では佐川町歴史的風致維持向上計画としてこれらの歴史の蓄積を保存し活用する取り組みが行われ、その成果として、歴史的建造物の減失を防ぎ、観光客が飛躍的に増加した。

しかし、現状では、観光スポットが点としてにぎわっている一方で、駅や駐車場と観光スポットをつなぐ動線はにぎわっておらず、また桜並木のある春日川の景観も活かしきれていない。

そこで、これから佐川町をより活性化させるために歴史的な資源、河川空間を活用し、駅や駐車場と観光スポットの動線をつなぐことで歩いて楽しいまちにすることを目的とする。

2. 対象敷地

対象の敷地は高知県高岡郡佐川町に位置する。本計画では特に町役場、春日川と遊歩道、酒蔵の道が含まれる範囲を対象敷地に選定した。(図1)

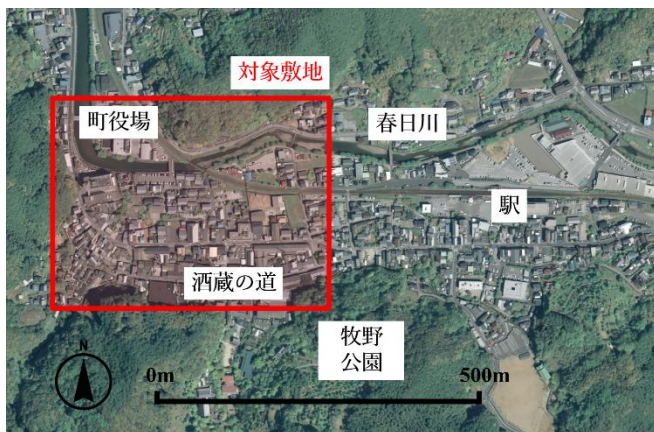


図1.対象敷地航空写真

(国土地理院 地理院地図に加筆して掲載)

3. 課題

1) 佐川町の人口に対して町の規模が大きく、機能が分散している

現在佐川町は人口減少傾向にあるが、長年、駅や町役場の配置はそのまま、まちの規模に対して機能が分散しており、観光スポットに行くまではまちなみに代わり映えがなく、歩いていて楽しめる仕掛けがない。

また駅から酒蔵の道や牧野公園などの観光スポットに向かう際、車通りの多い土佐街道を横断する必要がある、歩いていて怖い印象を受ける。(図2)



図2.現状の配置と動線

(国土地理院 地理院地図に加筆して掲載)

2) 桜並木のある春日川や遊歩道が美しい景観として活かされていない

堤防がコンクリート3面張り人で寄せ付けない雰囲気がある。(図3)



図3.遊歩道と堤防の現況

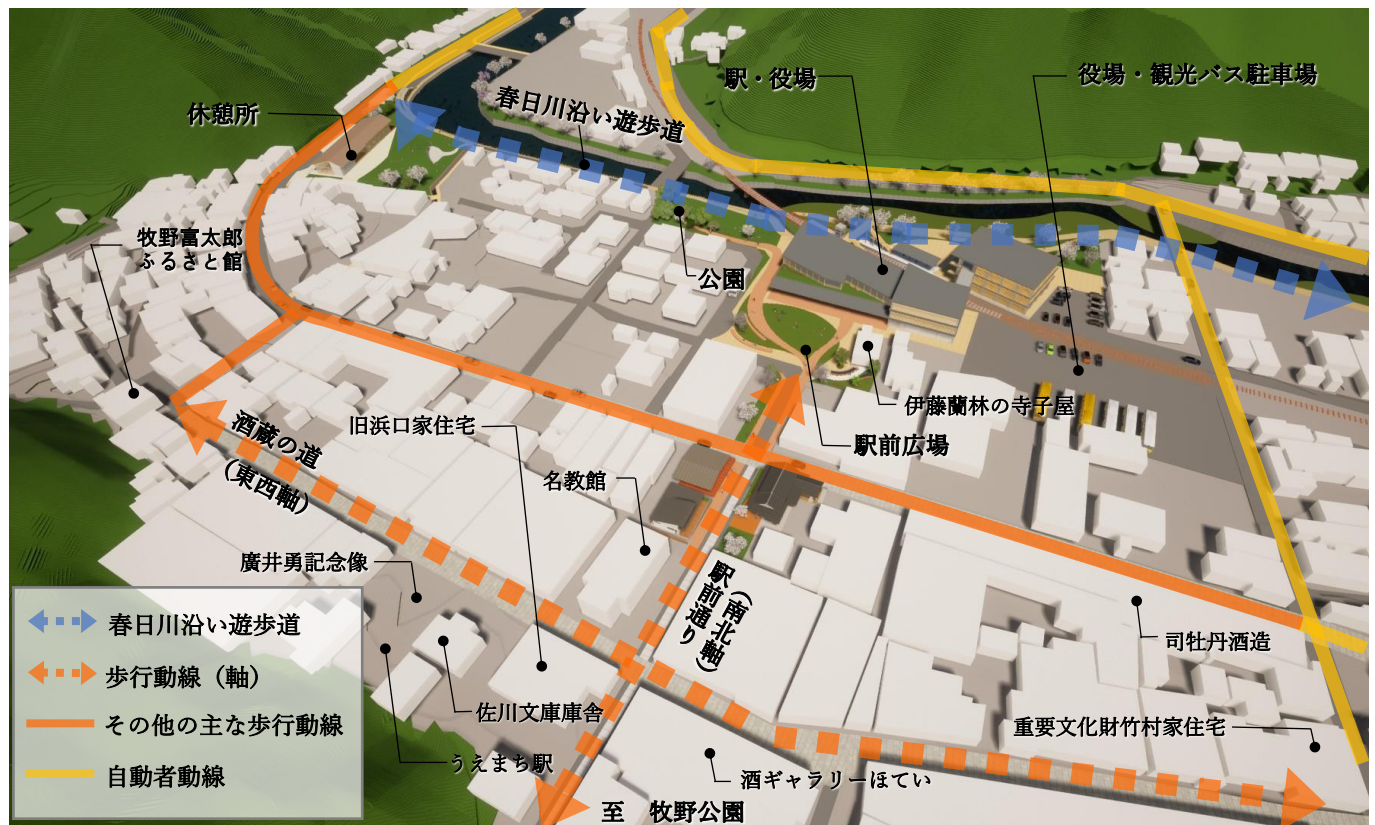


図 4.完成予想パース

4. 設計方針

1) まちの規模をコンパクトにする

人が苦にならずに歩いて行ける 500mほどの範囲内に駅、役場、観光スポットなど、まちの機能と賑わいが集約するように計画する。

2) 歩行動線を設ける

牧野公園と春日川をつなぐ道を南北軸、酒蔵の道を東西軸としてまちに軸を設け、この軸上に歩行空間を整備する。そして、春日川と南北軸が交わる位置に駅と町役場を一体的に設計する。また、桜並木のある春日川を美しい景観として活かせるように既存の川沿い遊歩道を再整備する。

3) 歩行動線上に賑わいをもたらす

駅・町役場から観光スポットまでの道を駅前通りとして、歩道の整備とカフェなどを配置し、賑わいを創出する。また、春日川沿い遊歩道の最終地点に眺めの良い休憩所を設計する。

5. 設計

1) 駅・役場

駅と役場が一体化した建物を設計する。駅前広場側に改札や住民サービスに関する執務室を配置し、線路を挟んで春日川側に会議室を配置した議会別棟型の空間構成で設計する。(図 5)



図 5.駅・役場の俯瞰パース

敷地西に配置した地域住民サービスのある執務室からは公園、鉄道、春日川が眺めることができるよう、大開口を設けた。(図 6)



図 6.地域住民サービスの有る執務室から公園を望む

自伐型林業が盛んなのでヒノキや杉を屋根の垂木や飾り柱などに用いた。特に改札から駅前広場に向かって外に出ると、牧野公園に向かって視線が伸びていくように屋根を配置した。(図7) プラットホームにも同じ屋根を設けた。(図8)



図 7.駅前広場を屋根の下から望む



図 8.プラットホーム

2) 駅前広場と公園

酒蔵の道から春日川の方に歩行者を誘導するようにレンガの舗装の歩道を公園まで伸ばして配置した。

また駅前中央にはマルシェなどのイベントができる交流広場として緑のオープンスペースを設けた。

今まで目立っていなかった牧野富太郎博士をはじめとした偉人が学んでいた歴史のある「伊藤蘭林の寺小屋」を、駅前広場の敷地に含めて整備する。寺小

屋前に机やいす、植栽を配置し、木陰で勉強できるスペースを設け、かつて子供たちの学び屋だった場所を現代へとつなげる。(図9)



図 9.駅前広場

駅前広場から春日川沿い遊歩道までに 2.5mほどの高低差があり、この高低差を緩やかにつなぐようにして公園を設計した。植栽は駅前通りから続くレンガで舗装された歩道沿いや花壇にワカキノサクラやサカワサイシンなど町の木や花を中心に配置する。(図10)



図 10.公園

3) 駅前通り

駅前通りに古民家カフェや既存の佐川地場産センターを配置し、また建物をセットバックしてテラスなどを設けることで賑わいを創出する。(図11)



図 11.駅前通り

4) 春日川沿い遊歩道

堤防はコンクリート三面張りから石積みへ変更する。左岸は水面から約4mのレベルに歩道が1本通っていた状態から、駅・役場から春日川に向けて2つのレベルで歩道を設け、川と人との距離が近く感じられるように設計した。また、右岸側も桜のスケール感に合うように堤防を設計した。(図12～15)

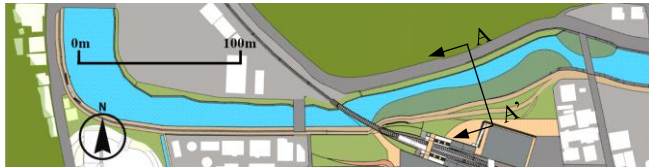


図12.春日川平面図

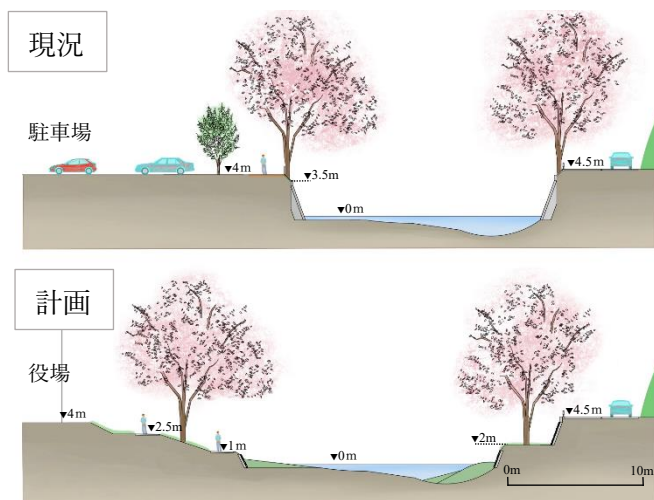


図13.護岸の現況 AA'断面図 (上)
計画 AA'断面図 (下)



図14.駅・役場前の遊歩道



図15.駅・役場周辺の春日川沿い遊歩道俯瞰パース

5) 休憩所

休憩所の敷地は現在約5階建ての空きテナントビルがあり、また佐川町内のローカルバスの停留所がある。また、近くには佐川町にある物作りスペースの佐川発明ラボもある。そこでバス停留所、発明ラボを融合させた春日川と桜並木を一望できる休憩所を設計する。

土佐街道側には周りの建物になじむような木造のカフェとバス停を設け、カフェからは桜並木と春日川を一望できるように設計する。(図16)



図16.カフェから桜並木を望む

また、遊歩道沿いに丘のようなスペースを大きくっており、発明ラボは子供たちが秘密基地のような感覚で使えるように丘の地下に設計した。(図17)



図17.遊歩道から休憩所を望む

参考文献

1) 佐川町ホームページ

<https://www.town.sakawa.lg.jp/>

2) 佐川町歴史的風致維持向上計画

<https://www.town.sakawa.lg.jp/file/?t=LD&id=1754&fid=7165>

3) 歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査

<https://survey.gov-online.go.jp/h21/h21-aruite/index.html>